

事務事業名		四ツ葉学園保育所運営事業		所属部	健康福祉部	所属課	子育て支援課
総合計画体系	政策名	(Ⅲ)地域で支えあうくらしづくり《保健・医療・福祉》		所属G	子育て支援グループ	課長名	田中 孝治
	施策名	(22)子育て支援の充実		担当者名	柁 博章	電話番号	0854-40-1044
	目的	対 A)子ども(乳幼児・児童生徒)	意 A)心身ともに健やかに育つ。B)安心して子育てができる。	予算科目	会計 011502	(内線)	3626
	対象	対 B)子どもの保護者	意 B)子どもの保護者	予 算 科 目	大 事 業 名	私立保育所運営事業	
	基本事業名	(064)子育て環境の充実				中 事 業 名	四ツ葉学園運営事業
	目的	対 子ども	意 整えられた環境で育つ。				

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (17年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
市内の四ツ葉学園保育所への入所申し込みがあった場合、受入れの可否を照会。可能な場合は、協議、委託契約締結などを経て入所承諾をし、保育料を徴収する。実施責任を負う雲南市が四ツ葉学園保育所に保育の実施に要する費用を支弁する。委託児童数の増加に伴い、入所定員(90名→平成22年4月:100名)の増加。

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	24年度実績(24年度に行った主な活動)	25年度計画(25年度に計画する主な活動)			
		委託先の四ツ葉学園保育所に実施費用を支弁する。	委託先の四ツ葉学園保育所に実施費用を支弁する。			
	② 活動指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)
	ア 委託料支払回数	回	12	12	12	12
	イ					
	ウ					
	エ					

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)
	保育を必要とする児童	ア 入所希望児童数	人	131	125	122	110
		イ					
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)	
保護者の職業の多様化による勤務時間の変化に柔軟に対応し、子育てしやすい環境をつくる。	ア 希望児童数に対する受入率	%	95.0	100.0	96.8	100.0	
	イ						
	ウ						

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳(24年度決算)	② コストの推移	単位	22年度(決算)	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(計画)	
保育所運営費:106,727千円 国庫補助:34,552千円 県費補助:17,899千円 保育料:21,106千円	財源内訳	国庫支出金	千円	35,734	34,688	34,552	30,398
		県支出金	千円	17,866	18,177	17,899	15,822
		地方債	千円				
		その他	千円	27,219	24,157	21,106	22,189
		一般財源	千円	30,061	30,809	33,170	29,585
		事業費計(A)	千円	110,880	107,831	106,727	97,994
		人件費	人	5	5	4	
	延べ業務時間	時間	250	250	250		
	人件費計(B)	千円	972	986	980		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	111,852	108,817	107,707		

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
保育所入所児童については、平成17年度(合併)以降、年々増加しており、定員変更や保育士配置しながら受入を図ってきている。また、年齢や申込時期等にもよるが、希望する保育園入所が困難なケースもある。	国の定める保育単価に準じ、保育費用を支弁する。(H18:60名→H19:80名→H21:90名→H22:100名)委託入所児童について、年々児童数が増加してきているので、待機児童が出ないように対応が必要となる。	保育所入所児童が増加する一方で幼稚園の入園児数は減少傾向にあり、幼稚園の一時預かり等の保育所と幼稚園との一元的な検討も必要となってきている。入所児童数に対する配置基準を満たすための保育士の確保が困難である

事務事業名	四ツ葉学園保育所運営事業	所属部	健康福祉部	所属課	子育て支援課
-------	--------------	-----	-------	-----	--------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があるとする理由																		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒																			
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？																				
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？																				
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒																			
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？																				
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	入所基準（職員の配置。施設面積基準）について施設整備が関係してくるため向上余地がない。施設整備をすれば事業費増加につながる。																		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない																				
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	対象児童が他保育所へ入所しないといけなことから、待機児童の増加等が発生する。																	
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有																				
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段（類似事業）はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		理由																		
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒	(具体的な手段や類似事業名)																			
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	児童福祉法に基づく措置制度のため																			
A 目的 妥当性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）		理由																		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない																			
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？																				
B 有効性	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	理由	運営費については法で定められており削減の余地がない。																		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない																				
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	市内の居住者で保育に欠ける児童については、すべて対象となっているため偏っていない。																	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である																				
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括（根拠と理由）																		
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)			<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	●	×	低下	×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
成果	向上																				
	維持	●	×																		
	低下	×	×																		
国基準等に基づき現状維持で実施する。			<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																		

3 今後の方向性【PLAN】